

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

こちらの内容についてはほとんど言及がなく、不明瞭であると感じた。中期計画として3つの柱の確立とその成長をあげている。その三本柱の確立と成長に向けてそれぞれ取り組みを示している点はとても評価できる。しかし、その一方でそのために現在持っている競争優位性をどのように活かすのか、その三本柱によって競争優位性が維持できるのか、そして会社が目指す姿を達成できるのかについては記載がなかった。そのため、せっかく質の高い三本柱を立てているのにそれだけが孤立してしまっているような印象である。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

この会社で自身の人的資本の価値向上は達成できると考える。なぜなら、人材育成のための研修がとても充実しているからだ。階層別研修にとどまらず、職能別や、自己啓発に関する内容まであるのは素晴らしいと感じた。また、グローバル人材の育成として英語能力向上のための留学や研修のほかにもグローバル人材研修まで存在しているのはとても自身の価値向上のためのプログラムが充実していると判断できるであろう。ただ、一つだけ気になる点を挙げるとすると英語以外に関しては研修以外のプログラムが組まれていない点である。個人のスキルアップという面では内容に少し偏りがあるようにも思える。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

報告書の改善の余地としては、会社の目指す姿に向けてより具体的に何をしていくべきかを記載することがあげられる。この会社が目指す姿が理解できるかのところでも触れたが、その状態をどうやって目指すのかといったところやそのために具体的に何を行うのかなどを正確に示す必要があるだろう。

さらに、他社との比較をすることで会社の競争優位性を保持しているところや逆に他社に比べて劣っている面で改善の必要があるところなどが見えてくるであろう。それらについてどうその競争優位性を維持するのか、劣っている面をどのように改善して他社に追いつくかが見えてくるように感じた。

最後にこの統合報告書にはあまり目に見えない財産がどういったものでそれがどのように会社に貢献しているのかがあまりわからなかった。会社としての金額に表れない一番の魅力は何なのかをはっきりさせてそれをもっとアピールできるようなものに変更する必要があると感じた。